

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵
事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

第二回「経済」公開講座&フリートークのご案内

「あなたは大きく損されているシリーズ第2弾— 一般消費税と税制の問題点—

講師：眞嶋 康雄（國學院大學経済学部専任講師）

11月11日（土）午後6時30分～ 資料代；300円

豊玉リサイクルセンター多目的会議室（西武池袋線「桜台」駅下車 3分）

総選挙の争点の一つにもなった消費税問題、今回の公開講座のテーマにして、税制と共にしっかり学びたいと考えています。一体、一般消費税とは何か、知られていない問題点の数々、8%増税で税制の歪みが増すほどになり、国民生活と日本経済が衰退する原因となっています。緊急かつ重大な課題の解明に役立つ講座にしたいと考えています。ぜひ、皆さんお気軽にご参加ください。

○「第二回公開講座&フリートーク」の内容については

◎一般消費税は世界一の悪税、「ゆり籠から墓場まで」

◎消費税は「増税中止？」「廃止？」それとも？

◎消費税増税で「財政改善？」誰が負担している？

◎日本の本当の「税収」はいくら？

◎不景気でも好景気でも大企業は笑顔？不思議な還付金システム

◎「税による所得の再配分」って何？

などなどの疑問に豊富な統計資料で「眼から

ウロコ」の話・参加者からの疑問、意見に答えながら（できるだけ）、一緒に知り、考えてみましょう。日本経済の基本中の基本の税制を学び、公正、公平な税制改革を実現して経済でも民主主義を。（眞嶋記）



ヒバクシャ国際署名を成功させましょう！ （署名した用紙は、森田事務局長あてにお送りください）

有原 誠治（練馬・文化の会 共同代表）

10月6日、国際NGO組織ICAN（アイキャン、核兵器廃絶国際キャンペーン組織）がノーベル平和賞を受賞しました。ICANのフィン事務局長は、活動の原点を「被爆者の存在だった」と述べています。1945年、二つの原爆が広島と長崎に投下されて以来、日本の被爆者たちは、自らの体験を「この世の地獄」と語り、「核兵器と人類は共存できない」と世界に訴えて来ました。7月7日に国連で採択された核

兵器禁止条約はその前文で、「核兵器の使用による被害者（ヒバクシャ）ならびに核兵器の実験によって影響を受けた人々に引き起こされる受け入れがたい苦痛と危害に留意」と、ここにも被爆者への特別な敬意が明記されています。その被爆者たちが高齢となり、自らが地上から消える後の世界を憂い、ヒバクシャ国際署名で次のように訴えています。

「平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の

人々か生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています」「あなたの署名か、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残す と確信します。あなたの署名を心から訴えます」

この被爆者の願いを受けとめて、署名運動の成功と核兵器廃絶を実現させる責任が、後に続く私たち被爆国の国民にあります。憲法九条を柱とする日本国憲法は、広島長崎被爆の体験をもって生まれました。核兵器の存在や使用につながる戦争を、二度と再び引き起こしてはならないとの願いから生まれた憲法です。それを活かして、次世代につないで行く憲法擁護の運動と、ヒバクシャ国際署名の活動は、根っこのところで深く結びついています。

しかしながら、「はたして、私の署名が世界を動かすのだろうか？」との疑問を持たれる方も少なくないと思います。ところが、核兵器廃絶を求める署名活動の歩みを見ると、世界を動かす、きわめて現実的な手段であることに気づかされます。

1950年、平和擁護世界大会に集った科学者たちは、ヒロシマ・ナガサキの悲劇が朝鮮戦争で再現されることを恐れ、核兵器禁止を求めるストックホルム・アピールを発表。世界中の人々に署名を呼びかけました。

これに心えて、日本では640万筆、世界で5億人の署名が集まり、米政府高官であったキッシンジャーに回顧録の中で、「この運動のために朝鮮戦争で核兵器を使うことができなくなった」と言わしめています。1954年3月にビキニ核実験場近くで被爆した第五福竜丸事件が勃発すると、市民が自発的に始めた原水爆禁止署名活動は、またたく間に日本中に広がり、8月までに449万筆、翌年8月の世界大会まで3240万筆となって、原水爆禁止世界大会開催の契機となり、日本原水協（54年9月）と日本被団協（55年）を生む原動力となりました。1985年に始まったヒロシマ・ナガサキからのアピール署名は、85年8月までに1000万筆。88年の第3回国連軍縮特別総会までに3000万筆を超え、世界の非政府組織(NGO)が一致して国連に、「核兵器廃絶を人類生存にかかわる第一義的課題として審議」するよう勧告する原動力となり、今日の核兵器禁止条約の成立に至っています。

日本の署名活動が、国連を動かし世界の声となっていることに確信をもって、ヒバクシャ国際署名に取り組もうではありませんか。

（追記；署名用紙同封いたしました、足りない場合はあらかじめコピーしてください。取扱い団体は文化の会ですので、署名済用紙は森田事務局長あてにお送りください）

「開進地区教育懇談会」へのご案内
11月23日（祝）午後2時～4時半 開進第2小 2階会議室
DVD「みんなの学校」を見ての懇談会
土田謙次（元教員一開進教育懇事務局）

私たちは、練馬区の子どもたちの教育をよりよくするために、開進地区の(元)保護者・教師の有志が、年4回程、様々な教育問題をテーマに懇談会を開催しています。今回は発達障害のある子と通常の子が一緒

に学ぶ学校を描いた下記のような「みんなの学校」というDVDを見ながらフリーに話し合います。みなさん、ぜひお気軽にご参加ください。

○DVD「みんなの学校」の内容

不登校ゼロ！ 特別支援教育の対象となる発達障害のある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学ぶ。開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人と一緒にあって、誰もが通い続けることができる学校、全ての子どもの居場所がある学校を作り上げてきた。子どもたちのどんな状態も、それぞれの個性だととらえることで、周りの子どもたちはもちろん、地域にとっても「自分とは違う隣人」が抱える問題を一人一人思いやる力を培ってきた。それが、このDVDに登場する「みんなの学校」＝大阪市立大空小学校だ。もし日本中の学校がこん



なだったら、「津久井やまゆり園」で沢山の障がいを持つ人たちが殺された事件は起きなかったのではないかなと思われるような学校だ。

ねりま沖縄映画祭、9月28日—10月9日、15作品を上映—500名超した来場者 武蔵大、日藝、ココネリ、区役所会議室などを会場に開催

「沖縄映画祭」、昨年は江古田のギャラリー古藤をメインに開催されましたが、今年はココネリや区役所会議室など練馬駅周辺の公共施設を会場に実施されました。9月28日はイベントとして日藝キャンパスで話題の「沖縄 さまよう木霊」を、また同30日には武蔵大で「Born Again 画家正子・R・サマーズの人生」と森口豁さんの「沖縄の18歳」など3本を上映、さらに10月1日から9日までの土・日・祝にはココネリ会議室などの公共施設を会場に計10本を上映しました。

今回の上映作品は与那国を描いたものが3本あったのをはじめ、久高島、宮古島など離島、小島取材したドキュメンタリー作品が多かったのが一つの特徴でした。その意味では地味な内容で、沖縄といえば「基

地反対闘争」といったワンパターンのとらえ方を払拭し、沖縄の文化を描いた作品がラインアップされました。宮古島2世の田場にとっては、宮古島の古謡、民謡を描いた「スケッチ・オブ・ミヤーク」に感激しました。

肝心の（スタッフを除いた）来場者数ですが、最も多かったのは、最終日に区役所多目的室で上映された「沖縄のハルモニー証言・慰安婦」で100人来場しました。次いで日藝での「さまよう木霊」70人で、2回上映した「老人と海」が66人といった具合で、ほかは30人～50人程度。総計でギリギリ500人を突破しました。文化の会関係では、スタッフとして6日間で延べ20人、来場者は約60人でした。

(田場記)

**総選挙を振り返る：練馬の市民連合版「ねりせん」が大奮闘し、原候補を支援
区議会の生活者ネット、市民の声、福祉フォーラム、社民党、新社会党なども応援
改憲勢力をつぶすのはこれからだ！**

市民が主役になるはずだった総選挙が終わった。自公の圧倒的勝利だといっても、自民党は変わらず、公明党は、議席を減らした。しかし、改憲勢力は、改憲発議に必要な3分の2を超えた。市民と野党の共闘を追及して、過半数を狙った3野党（立憲民主党、共産党、社民党）は、残念ながら負けてしまった。

自民党は、小選挙区で得票率47・82%で74・39%の215議席を獲得した。比例代表でも得票率33・28%でしかない。同じ公明、維新も得票数を大幅に減らし、議席数も減らした。

練馬区の9区は、原純子さんが共産党公認で立候補して、市民団体「ねりせん」が全面的に応援して、健闘し、票を伸ばしたが、厚い壁を破れなかった。しかし、共産党の原純子候補に生活者ネット、市民の声、福祉フォーラム、社民党、新社会党、白石けい子、沖山一雄さんたちが、次々とマイク

を握り、応援演説した。練馬の選挙戦史上初めての光景ではなかったのか。

これも、昨年作った「ねりせん」の働きがあつてこそ。市民が声を上げてこそ「市民が市民たるゆえん」ではないか。今回は、まだまだ力不足であったが、これからの布石になったのは間違いない。

強力政権に対しては、弱いものが集まって、あらゆる知恵を出し合って作戦を練り上げる。それを地域で作り上げていく。民主主義の基本である。

全国的に野党共闘の結果分析が必要であるが、政官財の権力が野党を分断させ、希望の党を作り、民進党を消滅させたのは、さすがと言える。権力側は、あらゆる手段を使って、「市民と野党の分断」を図る。そのためには、北朝鮮を利用し、マスコミを利用し、国民をだます。負けてはいけない。声を上げよう。

(森田彦一記)

区民集会「平和・基地分科会」学習会のご案内 陸上自衛隊『総隊』制移行がめざすもの ～陸軍参謀本部暴走の歴史を踏まえて～

講師；瀨瀨（こうけつ）厚・山口大学名誉教授 参加費；無料
11月4日（土）午後3時～5時（終了後会費1000円で講師囲む会）
会場；練馬区役所20階交流会場

海外で戦争ができる体制強化をねらった安全保障法制の成立を機に、このところ自衛隊強化の動きが目立っています。そうした動きの一環が陸上自衛隊の「総隊」制移行です。最近では北朝鮮の軍備強化を口実とした訓練強化や飛行機事故が増発していますが、マスコミ報道を見る限り、そうしたものは実感として感じられません。

「暴走する自衛隊」「集団的自衛権容認の深層」「文民統制」の著書があり、安倍

晋三首相の地元山口で、参院選の野党の統一候補として擁立された瀨瀨・山口大名誉教授をお招きして自衛隊強化の実態をお話しいたします。

「戦争する国」はどのようにしてつくられようとしているのか、憲法9条の成否が問われようとしている今、必見・聞の学習会です。お気軽にお越しください。終了後にはコーヒー&軽食付きで、瀨瀨さんを囲む会も予定されています。

会費未納者（年会費2000円）には振込用紙を入れました。よろしくお願ひいたします。会費のお問い合わせは担当の轡田まで（電話03-3948-5129）